

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	長寿御祝事業		コード	02-01-04-19	担当課係	福祉事務所	高齢者福祉係
事業実施期間			担当者	行正英仁			
総合計画事業(政策)体系	大項目	健康でやさしさあふれるまちづくり	電話	64-1827			
	中項目	やさしさあふれるまちづくり					
	小項目	高齢者福祉					
	施策	地域社会づくりの支援					

事業について	
目的	①長寿祝金：高齢者に対し祝金を支給して敬老の意を表し、その福祉を推進する。 ②高齢者ふれあい事業：高齢者同士や近隣住民等とのふれあいのために町内会等が実施する敬老会等の行事に要する経費に対して、補助金を交付することにより、高齢者の心身の健康増進を図る。
対象(誰のために)	①100歳の市民 ②年度内に75歳以上となる市民
内容	①祝金を支給する。 ②町内会等が実施する敬老会等に補助金を交付する。

事業の結果	17年度		
実施項目	回数など(単位)	回数など(単位)	回数など(単位)
長寿祝金対象者	11人		
高齢者ふれあい事業対象者	5,711人		

事業費(単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	16,162	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	5,955	受益者負担		人件費		受益者負担	
	市債			市債		市債		
合計	22,117	一般財源等	22,117	合計	0	一般財源等	0	

必要人員	0.65	人		人
結果指標①	結果指標名	敬老祝金対象者		
	結果指標量	11		
	単位	人		
	対前年比	—	0.00%	
	事業費	1,145,000	円	円
	単位当たりコスト①	104,091	円	円
結果指標②	結果指標名	高齢者ふれあい事業対象者		
	結果指標量	5,711		
	単位	人		
	対前年比	—	0.00%	
	事業費	20,972,000	円	円
	単位当たりコスト②	3,672	円	円

事業の成果			
成果指標名	高齢者ふれあい事業75歳以上参加率	式又は説明	75歳以上参加者数/対象者数
成果指標量	17年度		
	50.75		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	60	到達目標年度	平成22年度

事務事業の評価	課題認識	
目的・対象・内容の妥当性評価	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等：①備前市長寿祝金条例②備前市長寿祝金交付金交付要綱	敬老事業は、市主催で行っていたが、年々参加者が減少していたことと、支持母体の婦人会の解散等により、平成12年度に見直しを行い、町内会等が主体の事業としている。今後も、実施方法の検討をしながら継続する必要がある。
効率性の評価	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である <input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	高齢者は年々増加し、コストは膨らむ傾向にある。補助単価・対象者の見直し等の検討が必要である。
有効性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている <input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	各地区で敬老会を実施することにより、参加者が多くなったという意見もあるが、老人福祉法にある敬老の意を表するものとして有効かどうかは疑問である。
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある <input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input checked="" type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 敬老祝金は、100歳のみを対象年齢を絞ったことで、敬老の意を表する効果が高まると思われる。また、高齢者ふれあい事業は町内会等の自主的な活動として定着しており、地域の一体感を高める意味でも継続が適当と思われるが、対象者や補助単価については見直しも考慮する。	評価区分 <A~E> <b>C</b>
------	---	---------------------------

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 完了・統合
翌年度結果指標量①	結果指標量②	
目標値	成果指標量	52

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	補助単価の減額	翌年度	対象者が年々増加する傾向にあるなか、コスト削減に繋がる。
有効性	対象事業を催し物の経費とし、記念品配布に対する交付を廃止する。	19年度以降	催し物の実施を推奨することで、地域交流の促進に繋がる。

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。